



院長
伊藤 真理子
プロフィール

真理子先生の

女性のどカタ

●(いとう・まりこ) 1986年山形大学医学部卒業。山大病院、篠田病院を経て2005年6月に真理子レディースクリニックを開業。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医。

愛児が女の子の場合

生まれて間もない女の子が月経のように出血して驚かれたお母さん多いんじゃないでしょうか。

赤ちゃんの出血

赤ちゃんは、妊娠中は臍帯を通してお母さんと血液のやり取りをしています。妊娠中にはよりさらに増えるお母さんの女性ホルモンも赤ちゃんに流れ込みます。出産と同時に流れが途絶えて赤ちゃんの女性ホルモンは劇的に減少します。赤ちゃんの出血はこうした女性ホルモンの減少が原因なので心配なく。そのメカニズムは月経のときの子宮の反応と

似ています。

オムツかぶれや腫れ

また、赤ちゃんが多いのがオムツかぶれで、こまめに換えてあげましょう。お母さんがカンジダ膣炎の場合は赤ちゃんに移りやすく、オムツかぶれとやや異なる縁がはつきりとした境のある真つ赤なお尻になります。もちろん、この2つは女の子ばかりでなく男の子でもなる病気です。

おりもの

帯下(たいげ、こしけ)、いわゆる「おりもの」が増えてお子さんの

下着が汚れる場合があります。おりものでお尻がかぶれたり、カンジダ膣炎だと痒くてお尻を触ってばかりだったり。お母さんに言い出せないお嬢さん多いでしょう。

そんな時、お母さんは決して怒ることなく、お嬢さんが早く治るよう考えて下さい。細菌が入っていることもありますから、長びくようなら病院へ。女の子はウンチの細菌が膣に入ると大変です。お尻は前から後ろに

ウンチでー！
前から後に拭くのよ！



拭う習慣を小さいころから教えましょう。

小陰唇の形

また良く心配されるのが左右の小陰唇の形が異なること。こちらも心配なく。人間、意外に左右同じではなく、問題ない場合がほとんどです。

〈産婦人科〉

真理子レディースクリニック

☎023-632-0666 山形市小姓町6-35

医療事務スタッフ
増員募集中！

(履歴書を郵送して下さい。)

